厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

がん関連苦痛症状の体系的治療の開発と実践
および専門的がん疼痛治療の地域連携体制モデル構築に関する研究

がん患者の療養生活の最終段階における体系的な苦痛緩和法の構築に関する研究
がん疼痛の治療アルゴリズム構築に関する研究

研究分担者　田上恵太　東北大学大学院医学系研究科緩和医療学分野　非常勤講師

研究要旨：がん拠点病院・緩和ケア病棟ではない医療機関、緩和ケアの専門家が不在な医療機関においても専門家が行う「がん疼痛の症状緩和」が行えるようなアルゴリズムの構築を目的としている。本研究では構築したアルゴリズムのユーザビリティ調査を経て、専門的緩和ケアセッティングではない実臨床現場における実用性を検証する。

A．研究目的
　すべての医療機関において緩和ケアの専門家が行う「がん疼痛の症状緩和」が行えるような標準的がん疼痛治療アルゴリズムの構築を目的としている。

B．研究方法
　構築したアルゴリズムの利便性・実用性の検証のためにインタビュー調査を用いたユーザビリティの検証を行う。調査結果を踏まえ、アルゴリズムはブラッシュアップを行い、新装されたアルゴリズムを用いた実用性の検証を前向き観察研究で行っていく。なお調査セッティングは、オンコロジーセッティング、プライマリ・ケアセッティング、在宅医療、僻地・離島の医療機関を想定している。

（倫理面への配慮）
　インタビュー調査は医療者を対象とし、実用性の検証のための前向き観察研究は通常診療の過程で取得されるものであるが、患者情報を特定できない様な対処を行う。

C．研究結果
　インタビュー調査によるユーザビリティの検証が終了した。インタビュー調査の実施にあたり、実際に患者にアルゴリズムを使用したのはわずか数名程度に留まった。

D．考察
　次段階に予定していた前向き観察研究は対象者数が少なくなりそうであり、実現可能性は低いと考えられる。

E．結論
　アルゴリズムの内容を見直し、医療者のみを対象とした実装研究がより望ましいと考えている。

F．健康危険情報
（分担研究報告書には記入せずに、総括研究報告書にまとめて記入）

G．研究発表
1. 論文発表
　アルゴリズムの格子となった、専門的緩和ケアセッティングにおけるがん疼痛の疫学調査の論文化および有害事象についての論文を報告した。データ集積および解析後は、アルゴリズム構築とユーザビリティをふまえたアルゴリズム治療の有効性・実用性の報告を英語論文で報告予定である。

2. 学会発表
　上記の研究結果を国内、および海外の緩和ケアに関する学術学会において発表を行う予定である。

H．知的財産権の出願・登録状況
（予定を含む。）
1. 特許取得
　特許取得の予定はない。

2. 実用新案登録
　実用新案登録の予定はない。

3.その他
　特記事項はない。